

2015年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、中央シベリア付近で正偏差が明瞭だった。東アジア～太平洋東部、米国東部、大西洋東部～ヨーロッパで正偏差、大西洋北部、ベーリング海周辺で負偏差となった。寒帯前線ジェット気流は平年に比べて明瞭で、東アジア周辺では北偏して流れた。帯状平均した対流圏の気温は、北半球の高緯度中・上層、南半球の高緯度を除く広い範囲で高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋の北半球側、中部太平洋赤道域で活発、フィリピン付近、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬はインド洋～インドネシア付近を東進し、中旬は不明瞭で、下旬はやや不明瞭ながらインドネシア付近～太平洋中部を東進した。対流圏下層では、太平洋で低気圧性循環偏差、インドネシア付近で高気圧性循環偏差がそれぞれ南北半球対で見られ、赤道域では太平洋で西風偏差が、インドネシア付近で東風偏差が卓越した。対流圏上層では、アフリカ～インド洋、太平洋中・東部では高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は-0.4だった。

世界の天候

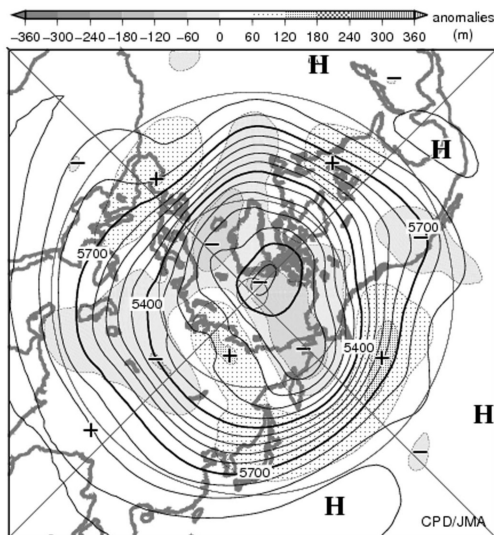
2015年11月の世界の月平均気温偏差は+0.54°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。

- 主な異常天候発生地域は次のとおり。
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
 - ヨーロッパ西部及びその周辺で異常高温となった。
 - インドネシア西部及びその周辺では異常高温・異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

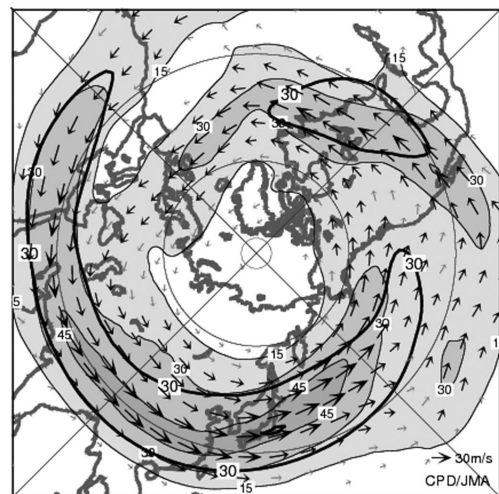
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



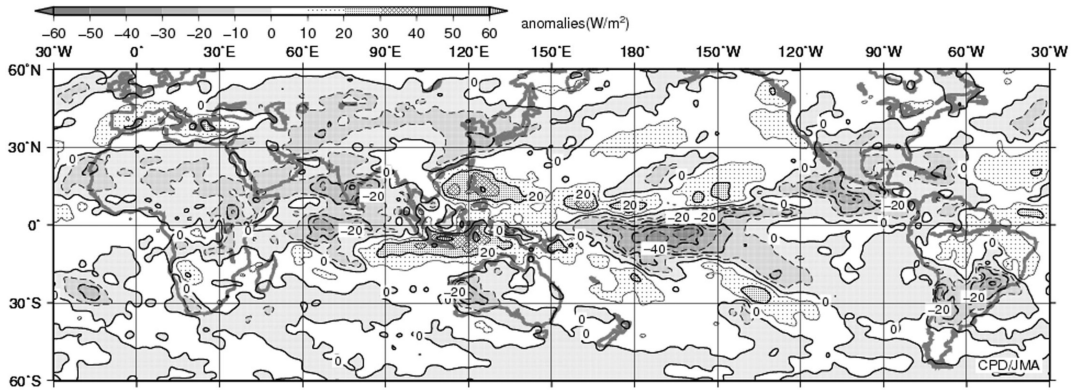
2015年11月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

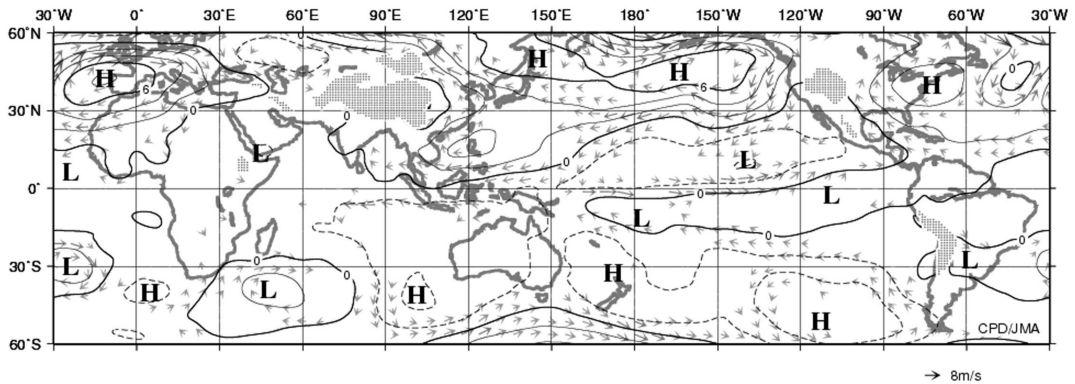


2015年11月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル

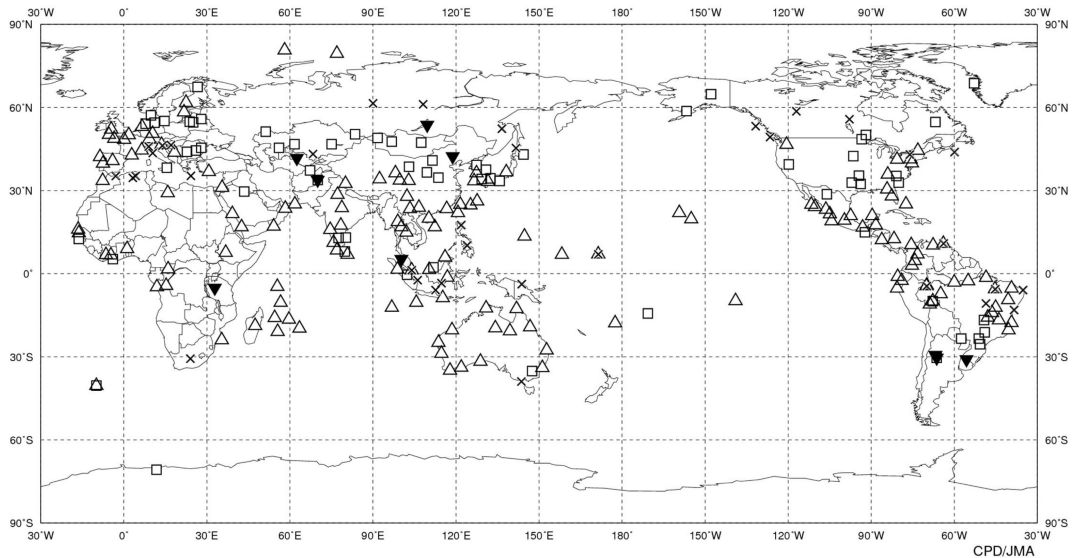
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。